



平成29年度とっとり環境杯－低炭素杯2018鳥取県大会－

10月29日(日) 公立鳥取環境大学内で「とっとり環境杯」が開催されました。とっとり環境杯は、地域の創意工夫を活かした地球温暖化防止や環境問題の取り組みを鳥取県内から広く募集し、優秀な取り組みを表彰するとともに、それらの取り組みを県内外に情報発信することで、県民エコ運動のさらなる活性化を図ることを目的としています。栄えある第一回目の大賞は米子工業高等専門学校です。米子工業高等専門学校は、2月15日(木)に日経ホール(東京都千代田区大手町)で開催される「低炭素杯2018」のファイナリストとして出場します。

今回入賞された団体は11月26日(日)、とっとり環境まつり「とりっこエコ活カーニバル」で活動報告の発表をされることになっています。



命と暮らしとふるさとを守るために

鳥取県連合婦人会



どんな取り組み? ごみの減量化とリサイクル(分別)、食べきり使い切り運動の推進、生ごみのたい肥化など

ここがポイント! 八頭郡では牛乳パック400kgほど回収し、リサイクルのトイレトーパーを購入しています。ミックスペーパーを資源回収に出して8%もゴミを減量できました。ごみステーションに生ごみ回収用バケツを置いてごみの減量につなげています。



ひとりの100エコより100人の1エコ エコ戦隊スナバース

どんな取り組み? スナバースはCOOL CHOICEを合言葉に地球温暖化を防ぐため鳥取で敵「CO2」と戦くヒーロー

ここがポイント! イベントの趣旨にあわせた具体的な省エネ行動を、ショーで子どもたちに伝えています。「スナバースと一緒にCO2を減らしたい」という子どもたちの声が進み、お母さんたちにも大人気。



自転車及び徒歩通勤者への手当支給

株式会社エッグ

どんな取り組み? 自転車または徒歩通勤の社員に通常の通勤手当+『健康手当:3,000円/月』を支給しています。現在の対象者は5名。オフィスの近くに社宅を購入したので、今後はもっと利用が増える見込み

ここがポイント! 健康手当を申請していない社員のうち、3名ほどが日常的に自転車通勤しています。ガソリン代の節約+手当なので社員が継続しやすく、企業側は社員用駐車場管理の手間が省けるので、他の組織や企業でもすぐ取り組めるといいます。



地域の誇り・ふるさとの宝 創生事業

彦名地区チビツ子環境パトロール

どんな取り組み? 米子城の歴史とともに甦った葉草、胡草(エビスグサ:通称ハブ茶)の事業化にむけて活動。お茶のほか、今後は「葉草炭」にして家の防湿、遮熱、防音対策に活用されることを期待

ここがポイント! 健康増進とともに社会問題化している耕作放棄地の利活用ができます。胡草の収穫作業は障がい者施設と協働で行っており、施設のみなさんに就労の機会を提供しています。



地域コミュニティから始まる人と地球にやさしい「暮らし方」 優秀賞 上私都まちづくり委員会(かみきさいちまちづくり委員会)

どんな取り組み? 体操教室やカフェなど、地域の見守りを兼ねた憩いの場を作って、クール・ウォームシェア、子どもや高齢者、大学生と一緒に遊んだり、伝統文化を学んだりしています。

ここがポイント! 古新聞を使ったエコバック作りは参加者の生きがいになっています。そして、野菜のおすそ分けに重宝しています。ピザ釜を作って地域の資源である薪を使った、地域の食材をのせたピザは大好評!地域をすきになることが持続可能な社会への第一歩「ESD」です。
<ESD: Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育>



障がい者施設と協働・廃食油を回収し車の燃料に再生する実践活動

彦名地区チビツ子環境パトロール



どんな取り組み? 障がい者施設と協働で廃食油からBDF(Bio Diesel Fuel: バイオディーゼル)を生産

ここがポイント! 公民館、自治会、婦人会、学校などと連携して環境学習会などを実施しています。障がい者施設のみなさんと一緒に環境に配慮した社会を目指してステップアップしていきたいです。



電力事業における再生可能エネルギーの活用と環境教育への取り組み ローカルエナジー株式会社

どんな取り組み? 「まちのエネルギーをデザインし、地域内資金循環を実現する」ために電力小売・卸売する会社。地域に貢献できる企業を目指して活動

ここがポイント! 電力供給源の63.9%はごみ発電・太陽光発電・地熱発電といった地域内の再生可能エネルギーです。次世代や地域への普及活動として、全国からの視察、地域の小学生の社会科見学、高校生への環境講演会を行っています。



二酸化炭素がエネルギー源となる発電装置の開発 米子工業高等専門学校物質工学科 谷藤研究室

どんな取り組み? 燃料電池用の電解質膜に「卵殻膜」を使うと「炭酸水」がエネルギー源に

ここがポイント! すでにある膜素材では「炭酸水」がエネルギー源になる現象はほとんど起こりません。炭酸水が燃料電池のエネルギー源になるのは、電解質膜に食品廃棄物の「卵殻膜」を使った場合です。



4Rの取り組みを当たり前の日常にするために今できること

鳥取県商工会女性部連合会

どんな取り組み? 県下18商工会議所女性部で平成8年からごみの減量・リサイクルの普及活動を実施

ここがポイント! ペットボトルキャップの回収、マイバックの利用など、取り組みやすい内容を関係団体と連携して続けています。段ボールコンポストで作ったたい肥を花いっぱい運動に活用したり、食品ロス削減レシピの開発なども行っています。活動は保育園や小学校にも広がっています。



Reペア コミュニティサイクル TUES 地球環境を考える会

どんな取り組み? 環境大学と津ノ井駅をポート(拠点)にしたコミュニティサイクルの活動(利用者はどちらのポートに自転車を返却してもOK)

ここがポイント! 自転車は津ノ井駅前の放置自転車と卒業生からの寄贈で、点検整備して活用、2年間で津ノ井駅前の放置自転車は40台から8台になりました。ものを大切にするという観点から自転車の修理講座やサイクリングイベントも実施しています。地域のイベントにはコミュニティサイクルの貸し出しもしています。



鳥取県大会は初開催にも関わらず、エントリーされたグループはどれも個性的で鳥取県の実状にマッチしたものがばかり、地球温暖化防止や環境への取り組みには、本当にさまざまな切り口があると感じることのできる大会でした。低炭素杯2018では鳥取県代表の米子工業高等専門学校をみなさんで応援しましょう!